



忘れない基金 オンラインイベント

東日本大震災から10年 私たちが忘れてはいけないことは

寄付先31団体のこれまでとこれから

忘れない基金の寄付先団体にアンケートをお願いし
31団体中、21団体からご回答をいただきました（3/23現在）



アンケートでお聞きしたこと

- ・現在の主な活動 + 活動の様子がわかる写真

（活動内容が変わった、または活動が終了した団体もあり）

- ・現状の活動の課題
- ・10年経ったいま思う、震災からの教訓とは
- ・私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？
- ・忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に
伝えたいことを何でも。
- ・現在の活動についての告知、宣伝



アンケート回答は次のページから

県をまたいでの活動もありますが、忘れない基金で寄付をした際の活動
が主に行われていた県ごとにまとめています。

福島



●現在の主な活動

岩手県大槌町、福島県相馬市、および長野県駒ヶ根市、東京都にて、
エル・システムの理念に基づく子ども対象の音楽教育プログラムを実施。

●現状の課題

震災後10年が経ち、**関連予算が減額する中での活動の継続が課題**。
確かに直接的に被災した子どもたちは大きくなり、そういう意味では
「震災子ども支援」の必要性は低くなっているかもしれないが、活動自体は必要という認識。
しかし地元へ落とし込んでいくこともなかなか難しい状況にある。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

震災以前から脆弱な環境にあった場所では、震災によるダメージも大きく、
様々な支援があってもそれを地元の力で継続させる力がなければ、支援終了と同時にまた元の状態に戻ってしまう。
支援によって改善できることもあるが、人々の意識や人の育成、財政の問題などの課題は簡単には解決されない。
災害からの復興、災害への備え、は、通常の生活をよりよくするためにも必要なことであること。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

10年という時間は、とても長いように見えて、まだ完全に復興していない場所もある。
地震や津波の被害を目の当たりにし、**被災した人にとっては、おそらく一生抱え続け、問い合わせていくこともある。**
そういう場所があること、そういう人がいることを忘れてはいけないし、
どこにでも誰にでも起こりうることであることを意識していかないといけないと思う。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

みなさまからのご寄付によって、活動が支えられました。経済的に豊かでなくとも、障害があっても、
学校に行きづらくても、家族とうまくいかなくても、**学校や家庭とは違う第三の場所として安心できる場所**があり、
仲間と音を合わせ、タイミングを合わせて合奏や合唱を通して、自信をつけ、他者とのコミュニケーションを
学べる環境は、このコロナ禍でも子どもたちの支えになっています。

一般社団法人エル・システムジャパン





●現在の主な活動

サロン活動による居場所の提供、町の賑わいを取り戻す活動

●現状の課題

コロナの影響を受ける中、東日本大震災と東電福島第一原子力発電所事故から10年が経過し、住民が大幅に減少したままで、**公共施設は整備された一方、商圈の縮小で商店の数も減少したままの状態が徐々に固定化**し、活動が縮小している。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

地震と津波の震災は克服しつつある半面、原発事故は継続し復興の遅れや地域のコミュニティが失われている現状もあるが、震災発生当時を回顧すれば、過去の経験則にとらわれず、津波警報が出ればすぐ避難。一旦避難したら自宅には解除まで戻らない。
数日間自力で過ごせるだけの備えをして置く。國の方針を鵜呑みにせず自分や地域で学び検証する。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

月並みですが、災害は忘れた頃にやってくるし、やって来たときは、**人々の連帯感の共有**が非常に大事だと思いました。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

私達は東日本大震災と東電原発事故で、長期間の避難を余儀なくされ非常に困難な状況が長く続きましたが皆様の支援を支えに今日を迎えられておりますことに感謝申し上げます。
特に原発事故の影響は現在も継続しており、私たちにとって、この**10年**は今後何十年も続く中の単なる通過点ですが、未来にふる里を繋ぐ努力をしてまいります。

特定非営利活動法人つながっぺ南相馬



福島の子どもの外遊び支援ネットワーク (NPO法人子どもの森ネットワーク)

●現在の主な活動

東日本大震災の復興活動は2017年に終了。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

風評や差別意識をなくすことの難しさは、コロナ渦の現在も同様ですが、
我が身に置き換えて考えることで相手を思いやる気持ちが少しでも持てるのではないかなど。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

災害そのものと同時に、被災した方々を思う気持ちを持ち続けることだと思います。
恥ずかしながら、東日本大震災の被災県となったことで、阪神淡路大震災等々で
被災された方々を我が事のように思うことができました。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

大震災の翌年に忘れないプロジェクト(大友克洋さんの原画展)からの寄付を頂いたことで、
多方面から支援を頂くことに繋がり、その後、数年間外遊び支援活動を継続することができました。
心から感謝しています。

福島の子どもの外遊び支援ネットワーク（NPO法人子どもの森ネットワーク）



かーちゃんの力・プロジェクト協議会

<https://www.iitate-yukikko.fukushima.jp/>



●現在の主な活動

東日本大震災の復興活動は2017年に終了。

現在は代表の渡邊とみ子さんが震災前から行っていた「いいいたて雪っ娘かぼちゃ」の栽培、加工、販売、広報活動+語り部活動。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

人と地域の繋がりを大切に。生きるための食と知恵。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

人から受けた恩。常に夢・目標を持って、諦めないで前へ進んでいくこと。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

原発事故の災害で避難を余儀なくされて、先が見えないと嘆いていたかーちゃん達が活動を始めるあたって寄付をいただき、拠点としていたあぶくま茶屋のプレハブの事務所の屋根交換や内装などに使わせていただき安心して活動できました。本当にありがとうございました。私たちは避難者でありながら、被災者支援も活動の一つとしてやってまいりました。

その活動が福島の復興のシンボル的存在として色々な賞も受賞できました。

これは多くの方々に応援・支援をいただいたおかげです。

2017年3月31日をもって飯舘村も避難解除になりました。それに伴い、かーちゃん達は帰還して行きました。

古里に戻り、営農再開をした方や、加工施設を作つて加工販売に頑張っているかーちゃん達もおります。

又、避難先と古里を行ったり来たりの2地域居住生活者もあります。

まだ帰還率は25%程度で、営農再開しても長年人がいなくなったところには猿や猪、

小動物などの被害がすごくて元のような生活にはまだまだ時間がかかるようです。

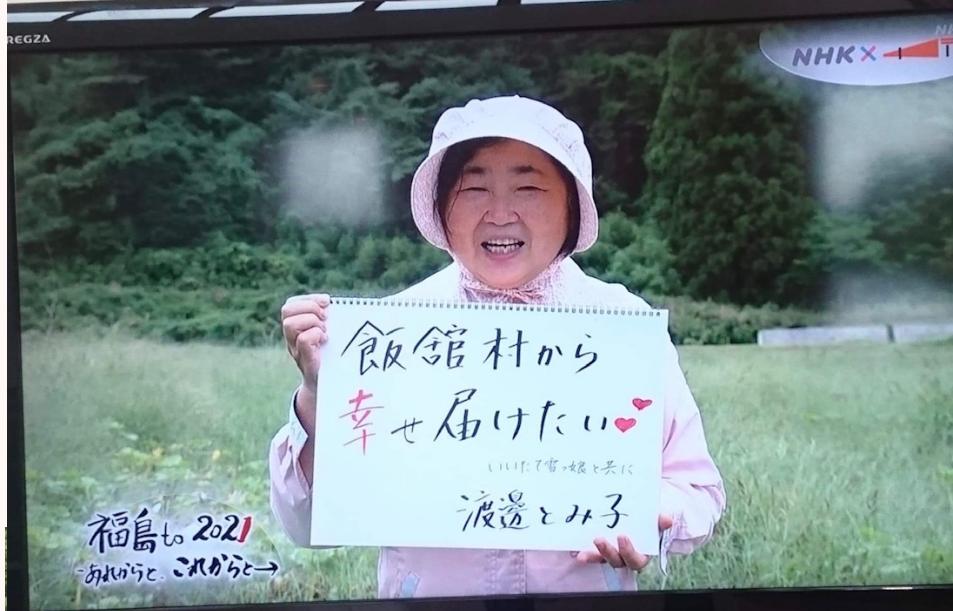
昨今のコロナ禍でかつての原発避難を強いられた時とダブって見えます。

更に、いつどこで災害が発生するかわからない状況です。私もこれまで応援支援をいただいた方々に

恩返しをさせていただいてます。できる時にできる事を必要な方にモットーにこれからも

恩返し・恩送りをしてまいりたいと思います。これからも引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

かーちゃんの力・プロジェクト協議会





●現在の主な活動

東日本大震災の支援は約三年前に終了。

弊団体は東日本大震災の災害が発生した被災地の災害支援として遊び場づくりから遊び場の運営支援を行っておりましたがすべて終了しました。現在が各災害に置いて災害 v c 運営支援と被災地区で活動をしている団体の後方支援や中間支援を行っております。

●現状の課題

被災地は往々にして初めて被災した地区が大半です。フェーズに応じて様々に変化をするのでITを強化したいのですが機材や専門知識のあるかたを常駐させるには費用がかかるのでいつも費用面の課題があります。そのほか被災が送る前から活動費（初動含め）や機材の支援をしていただける財団等をさがしていますがなかなか見つからない課題があります。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

被災とは平時の人間関係が浮き彫りになります。その結果「差別」「区別」「男尊女卑」など普段見て見ないふりをしてきたことが明確になり様々な課題や被害が次々に生まれてくる事を学びました。その教訓から平時における地域の見直し、コミュニティづくりの大切さを伝えて変えていく事が大切だと知りました。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

10年に一度、50年に一度、100年に一度の災害は毎年やってくる。

「防災」を「忘災」にしてはいけない。そして被災された方の心はずっと傷が残っているということを忘れてはいけない。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

「災害は忘れたころにやってくる」これは寺田虎彦の言葉です。

災害はどうしても忘れてしまいます。忘れた時に突然足元に災害が来た方は呼ばれたくもないのに「被災者」と呼ばれてしまします。心の準備もできないまま、その時から辛くて暗いトンネルをくぐりはじめます。

終わりがいつなのかもわからないままに。そのような方々にために「寄付」という力はどんなに小さくても被災をした方々に届きます。ぜひ力を被災地に届けましょう。

そしていつの日か「被災」という言葉が消えるまでみんなで信じて進みましょう。

bousaring (日本冒険遊び場づくり協会を通じて寄付)





●現在の主な活動

被災地域での孤立防止、コミュニティー再生支援、障がい福祉施設のものづくりの強化を通じた商品の販路拡大支援などを実施しております。

●現状の課題

ハードインフラ面に関してはほぼ復興したと感じています。

しかし、一人ひとりの生活に対する支援が少ないため、震災以前の生活レベルに戻れない方も見られます。

また、原子力災害に対する施策の不備によるコミュニティーの分断は深刻で解決する糸口が見えません。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

地震や水害対策などに対する備えをより一層強化していくことが必要です。

一方で、各地にある原発が暴走したら打つ手はないです。まずは、原発を即廃止すべきでしょう。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

原子力発電事故の緊急事態宣言は発令中だということです。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

障がいのある人への支援やコミュニティー再生の支援を継続しておりますが、

発災直後の緊急期において地域でいかに安否確認をし、要支援者を取り残さないかが重要です。

私たち一人ひとりが自分の地域での防災について知るために行動することが大切なのではないでしょうか。

特定非営利活動法人 難民を助ける会



宮城



●現在の主な活動

地域住民の外出を守る助け合いボランティア送迎
付き添い付きお出かけ送迎事業
生活支援事業

●現状の課題

震災より10年目を迎え、**活動資金・人材の確保がより一層難しくなる**と感じています。
補助金、助成金の先細りもあり、寄付の拡充と自前での収入確保拡充を目指しているが、
今なお苦しい状況にあると感じています。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

ここ石巻では多くの団体が立ち上がり今でも**苦しいながら活動を継続しているところも多い**です。
これは国や民間、個人にいたるまで多くの支援の輪が繋がったことにほかなりません。

同時に震災より**10年目を迎えた被災から復興の中で継続した課題や新たな課題**も起こり、
これに寄り添うまたは対処していく活動が今後も続きます。皆様のご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人移動支援Rera





●現在の主な活動

持続可能な集落作り

3世帯まで減少した集落を残すため、交流人口や関係人口を増やし、地域課題を事業にしてきました。主にcafeはまぐり堂を中心として様々なイベントを開催し、マリンアクティビティや林業、狩猟、漁業の6次産業化など多岐にわたる活動をしてきました。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

どれだけ、経済が発展して便利な社会になっても自然の大きな力にはかなわない。
しかし、**どれだけ打ちのめされても、人の力が集まればまた立ち上がれる**ということ。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

人も自然の一部にしか過ぎないという謙虚な気持ち。
またいつどこで災害が起こるかわからないので備えつつ、今日一日を大切に生きること。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

おかげさまで、全国の皆さんからの寄付や応援によって10年を迎えることができました。
これからもこの火を絶やすことなく活動を続けていきたいと思います。

蛤浜再生プロジェクト





●現在の主な活動

いのちと性のお話（保育園児から高校生までを対象に出前講座）、
出張保健室・いきいき体操・健康講話（事業所、高齢者サロン、自治会等で健康増進・介護予防活動）、
ママと子どもの保健室（子育て中の母親の健康チェックと健康相談）など・・・。

●現状の課題

1年半前に拠点を無くし、出張して行う活動に切り替えたが、
今年度は新型コロナウイルスの影響でイベントや高齢者サロン等の活動がなくなり、
活動の機会がなかなかないこと。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

困難から立ち上るためには、**人とのつながり、コミュニケーション**が大きな力になること。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

日常生活のありがたさ。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

東北に思いを寄せてください、ありがとうございます。
本日（3月6日）、気仙沼湾に三陸道の「かなえおおはし」が開通しました！
新型コロナウイルスの影響で、なかなか動けない日々が続いているが、
落ち着いたらぜひ新しい気仙沼湾の景色を見にいらしてください！

特定非営利法人プロジェクトK（前：N P O 法人生活支援プロジェクトK）





●現在の主な活動

被災地の子供達に海の楽しさを伝える活動、震災孤児を温かく迎え入れる活動

●現状の課題

網地島の高齢化率が8割を超え、亡くなったり、
認知症になる人が増えて来て、担い手が少なくなっていました。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

震災はすべてを破壊しましたが、**新たな人達との絆が生まれ**、
幸せを感じられるようになってきました。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

人の温かさ、恩送りの気持ち、子供達の未来、お年寄りの温かさ

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

今回の寄付で、300人の島の民間病院（網小医院）のスタッフに参加していただくことができました。
新しい絆が生まれました。ありがとうございます。

あじ島冒険楽校





●現在の主な活動

障害児の日中活動支援、ショートステイ（児童福祉法、障害者総合支援法による事業所）

●現状の課題

事務局を担える人材の不足

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

緊急時の災害支援と日常の支援は、活動内容もスタッフの心がけも違う種類のものだと実感している。
このスタッフ個人の意識の変化と、団体の活動としての変化を、意識して段取りすることが必要だと思う。

災害ボランティアは「今、困っている人をなるべく多く助けたい」という意識で行うことが多いと思います。
でも、日常の支援活動は、「今だけでなく将来」を見通すこと、「多くの人を助ける」というより
「長く助ける」ことを意識することが大切かと。

震災復興には、災害支援から日常支援へ変わるフェーズが必ずあります。その段階をしっかり見極めて、
災害支援で行くなら活動を終了させ、日常支援でいくなら団体を変化させることが、
有益な活動が続く秘訣なのかなと思いました。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

災害は他人事ではないこと。日頃から自分ごととして備えることが大切。

特定非営利活動法人奏海の杜



岩手



●現在の主な活動

岩手県内の災害公営住宅や被災地内の公民館等での無料の映画上映会活動。
地域の方々が主催となった自主上映。地域での上映者育成活動。

●現状の課題

岩手県の復興関係の助成金を活用して実施していますが、年々、
金額や内容審査など採用要件が厳しくなっております。
単年度事業なので次年度以降について、不採用になる可能性もあり、
そういった場合は活動できなくなってしまいます。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

人は人にしか救われない。人が造ったものは自然の力には圧倒的に無力。
防災教育の必要性。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

15,899人の方が亡くなり、2,529人（警察庁発表）の方がまだ見つかっていないこと、
傷が癒えないその方々の家族が暮らしていること。
自然の災害ではない、人が作った原発が引き起こした大きな被害。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

映画上映は支援無くしては成り立っておりません。
寄付をいただいた皆様に心より感謝いたします。
節目、10年、だからどうこうはありませんが、
これからも自分たちが地域に出来ることを行っていきたいと思います。
映画館は無くとも地域でスクリーン体験できる場を、沿岸各地で広めていくのが目標です。

みやこ映画生活協同組合





●現在の主な活動

食育活動：生き延びた命、食事を大切に元気な体をつくる

介護予防活動：仲間づくり生きがいづくりで、生涯現役

コミュニティ支援：地域に馴染むキッカケづくりで楽しい暮らし

●現状の課題

講座の開催ができない、飲食部門の店舗休業で、直接対面での指導が困難。

手を差し伸べたいが、コロナでお互い自粛中、資金の先細り

（助成金が9月までで、10月からの活動資金の当てがない）

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

過去の教訓が風化されていた。文明の進化により自然への驕りがあった。

情報の過信があった。

地域・人との繋がり（キヅナとホダシお互いさまで強固に）が、**復興の大きな力**となる。

同時に被災しても、復興は人様々で、まして心の復興は目に見えず、

デリケートで終わりの見えない課題だ。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

自然への畏怖、**世界中からの励まし**、人・地域の繋がり、後世へ伝え続ける

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

コロナ下で思うような活動が出来ていませんが、考え得る方法でアプローチを続けています。

終息が見えたなら、するべきことが山積していますが、その時活動資金が有るか不安です。

事業継続の方策・自立の為の道すじ等、何か知見を頂けましたら幸いです。

特定非営利活動法人りくカフェ



特定非営利活動法人みやコラボ

<https://www.facebook.com/miyacolab/>



●現在の主な活動

市民活動相談、コーディネートなど

●現状の課題

「変わらず」というわけでは全くななく、団体としての活動はかなり難しくなっている。

これまでの団体の活動の実績で、何故か代表個人で仕事を受けている

「宮古市立第一中学校地域学校協働本部 地域コーディネーター」の仕事で中心市街地を主とした地域にかかりながらも、それではさばききれない部分を支援している。今年度は、「宮古まち育て支援プロジェクト」を立ち上げて、震災被害を受けた宮古市庁舎から移転した新庁舎との複合施設「宮古市市民交流センター」の在り方や、中心市街地とのにぎわい創出のための支援の在り方を考えるための話し合いの機会や実践などを行なっている。どんどん、**地域づくりに主体的にかかわるプレイヤーが「お金にならない」を理由に減っているような気がしている。**生活が大変な世の情勢もありますが。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

日々のコミュニケーション。繋がる力があれば、きっと何とかなるから。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

感謝の気持ち、ご支援くださった皆様、どうもありがとうございました！

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

ご支援くださった皆さんのおかげで、生まれ育った地域で復興支援や地域づくり活動を行なってくことができました。地道に地域の方々の協力を得ながら、様々なプロジェクトにかかわらせていただき、企画・調整などに携わってきました。ニュースに取り上げられるような派手なことはやっていないのですが、頑張っている人のサポートをしたり、地域がより良くなることを続けられる限り頑張りたいと思っています。

なかなか、出かけられない世の中ではありますが、機会がありましたら、いろいろと頑張ってきた東北の地へ、遊びにいらしてください！

特定非営利活動法人みやこラボ

あれは、 春 だったね。 2021

2021年2月27日（土）～2021年3月7日（日）
みんなでつくる春の宴

●ひなフェス2021 会場 イーストピアみやこ
・ひな人形の展示(和室1)
2/27(土)13:00～3/7(日)14:00
・ひな祭り検定試験(創作スタジオ)
・作って楽しむ折り紙教室(和室2)
2/27(土)13:00～15:00
2/28(日)10:00～12:00、13:00～15:00
宮古市立第一中学校生徒会

●街なかテイクアウト市
春のまち歩き、テイクアウトで楽しみませんか?
3/6(土)7(日) 9:00～14:00
・ゆいまーる他(saku saku 坂庄駐車場)
・大屋屋 テイクアウト弁当(小成園末広町店/6日のみ)

●街なかフリマ in SHOP
野菜の無人販売のような小さなフリマが商店街に出現!
(のぼりが目印です!)
3/6(土)7(日) 10:00～15:00
・宮古市中心市街地商店街協力店舗
宮古まち育て支援プロジェクト

3月1日(月)～3日(水) 小成園末広町店2階
●昭和思い出探し 宮古のひな祭り/昭和どおりのおかみさんもてなしたい
3月6日(土) 宮古市民交流センター(イーストピアみやこ)
●春の市民交流DAY/宮古市市民交流センター
3月1日(月)～ 末広町商店街、大通一丁目商店会、中央通商店街
●春のお買い物スタンプラリー/春のお買い物スタンプラリー実行委員会

新型コロナウィルス感染症対策のお願い
ご来場の際には、マスク着用・手指消毒をご協力ください。
・風邪のような症状や体調に不安のある方は、ご来場をお控えください。
・状況に応じて、開催を縮小・中止する場合があります。

主催 あれは春だったね実行委員会(宮古まち育て支援プロジェクト、宮古市民交流センター、末広町商店街振興組合、中央通商店街振興組合、昭和通りのおかみさんもてなしたい、Art Envy's、NPO法人エムジョイ、NPO法人みやっこベース、NPO法人みやこラボ、みづき会、宮古市立第一中学校生徒会/第一中学校地学校協働本部)
主管 宮古まち育て支援プロジェクト(事務局 金野 090-6623-6078)

この事業は、宮古市提案事業(テーマ設定型事業)「宮古まち育て支援調査研究事業」として実施しています。

まちづくり市民会議 まち育てサロン

○日時 2020年12月6日(日) 18:00～20:00
○会場 宮古市市民交流センター 多目的ホール
(宮古市宮町一丁目1番30号)

入場無料

オンライン配信でも参加できます!
配信用のURLは、イーストピアみやこ HP
(<https://eastopia-miyako.jp/>) から
ご確認ください。

※講演のみの配信で、意見
交換会の配信はありません。

QRコード
イーストピアみやこ HP

①オンライン講演会
市民を応援する施設から
広がる市民協働
～神奈川県平塚市の事例について紹介～
◆講師：ひらつか市民活動センター
センター長 坂田 美保子 氏

②基調講演
市民交流センターが
もっと市民交流を
促進していくために
◆講師：弘前大学大学院 地域社会研究科
研究科長 教授 北原 啓司 氏

③まち育てサロン
(意見交換会)
これからの
市民交流センターの
在り方について考えよう
◆座長：
弘前大学大学院 地域社会研究科
研究科長 教授
北原 啓司 氏

主催 宮古まち育て支援プロジェクト TEL 090-6623-6078 事務局 金野
この事業は、宮古市提案事業(テーマ設定型事業)「宮古まち育て支援調査研究事業」として実施しています。



●現在の主な活動

養殖わかめの生産と塩蔵わかめの産直販売

●現状の課題

生産者の高齢化による後継者の減少対策。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

津波前も後も、大地震がきたらとにかく高台に逃げること。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

私達「虹の会」が今も継続できておりますのは震災直後から心温かい全国からの皆様のご支援、ご協力を賜りましたからで、心から感謝いたします。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

皆様からの多大なるご支援を賜りましてお陰様でわかめのボイル設備を整えることができ、ほぼ震災前の収穫が出来るようになりました。本当に有難うございました。

産直も全国のわかめファンがどんどん増えており、本当に夢のようです。
もっともっと精進して参ります。

北浜わかめ組合虹の会





●現在の主な活動

震災後10年間、継続して運営しているが、現在、コロナ禍の関係もあり、イベント等を自粛しています。

●現状の課題

これまでも、数年間は民間団体からの助成金で運営してきましたが、ここ5年間は自主財源のみで運営しており、これ以上の投資も限界があり、10年をめどに活動を休止することも視野に入れ運営しています。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

人と人のつながりが、大切だと感じました。

この遊び場づくりを通して、人が人を呼び、沢山の応援スタッフに助けられ、これまで事故もなく運営することができました。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

受けた恩を忘れてはならないということを痛感しました。

このこすもす公園は、「与えあいの公園」と言っていますが、それは、私たち夫婦が津波に巻き込まれることなく生き組に回った恩返しに、子どもたちの笑顔を増やそうと遊び場づくりをはじめました。

また、同時に多くのボランティアの人々に宿や食事を提供しました。その恩返しに、公園づくりをしてくれました。今は、遊んでいる子どもたちの姿を見たり、笑顔や笑い声を聴いて、私たちが子どもたちから元気をもらっています。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

被災した子どもたちを元気にしようという思いから、自力で公園を作り、10年もの間、運営できたのも、皆様からのご支援の賜物と感謝・感謝の念でいっぱいです。

希望と笑顔のこすもす公園（創作農家こすもす）





●現在の主な活動

発達障がいや発達の遅れのある子どもや不登校など、
様々な困難を抱える子どもを対象にしたホースセラピーの提供

●現状の課題

地域（市内や周辺市町村）における団体・活動の認知・理解の不足...
利用対象となる子どもは、地域内に存在しているが、
まだ十分にホースセラピーを届けられていません。
地域における団体・活動の認知や理解がすすめば、対象となる子ども達に
セラピーを提供することができると考えています。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

日常からの、つながりや備えが重要（日常できていないことは、非常時にできない）。
支援する、される関係ではなく、共に歩むという関係が必要

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

ハードの復興は目に見えるので分かりやすいが、**心の復興は、目に見えない。**
10年を過ぎても、注視し、寄り添っていく必要がある。

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

財政的に、大変厳しい時期にご支援をいただいたことで、今は、財政基盤も構築されて、
スタッフもこの1年で倍増し、毎月延200名の子ども達にホースセラピーを届けることができるようになりました。
まだ、様々な困難を抱える子ども達が存在する中で、継続的に子ども達へのサポートを
していきたいと思っています。さらに、18歳を越える子どもも出てきたことから、
馬と福祉と地域資源を掛け合わせた新たな仕事づくりにも着手します。

一般社団法人三陸駒舎





●現在の主な活動

双葉郡の情報発信、伝承活動、視察ガイド、コミュニティやネットワーク作り、各種資料アーカイブ、ふたばいんふおの運営など

●現状の課題

年度ごとに更新するふたばいんふお運営費

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

民間でも、1人でもできることがある。社会の底辺で人々を支えるしくみが必要。

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

命の大切さ

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

双葉郡はまだまだ道半ばですが、着実にゆっくりと前にすすんでいます。

双葉郡未来会議





●現在の主な活動

朝市会場内（メイプル館内）スペース40席を設けご予約を頂き映像を交え、講話を行っております。
現在であれば、東日本大震災から10年を振りかえるをテーマとしています。

●現状の課題

取材などで感じる事がございますが、直後より恐怖心や、体感に臨場感がなく、
薄れていく傾向にあるため、**伝えきれるのか**という所。

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

自分の身を守るのは自分

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

助け合いの心

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

何かあったときの準備

ゆりあげ港朝市協同組合





●現在の主な活動

困難を抱える子ども・若者の「まなぶ」「はたらく」を支援する

●現状の課題

- 1) 被災した沿岸部の子どもたちが復興公営住宅へ住まいが変わり、高校進学する際、交通手段がない困難さや交通費が高額のため、困窮世帯の子どもたちが経済的に難しくなっている状況。
教育や経済の格差が広がっている。
- 2) 本人の問題ではなく家庭環境の課題から不登校・ひきこもりになる若年層が多く、また「こころの病」が起因している生徒の支援(セーフティネット)ももっと必要となっている

●10年経ったいま思う、震災からの教訓

物理的なこと：家族や職場、地域の方々と日頃から、災害が起きたらどこに避難するか、連絡方法などを共有しておくこと。避難するとき持つものは常に寝室に置いておくこと

心理的なこと・セルフケアを心がけておくこと

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

ひとつひととのつながりがこころの健康につながること

地域コミュニティの大切さ

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

災害はどこでも起きることを忘れずに、日頃から地域コミュニティの大切さを考えて欲しい

認定 NPO 法人 Switch (石巻 NOTE)



特定非営利活動法人さんりく WELLNESS

<https://ameblo.jp/sanriku-wellness/>



●現在の主な活動

運動教室を通じたコミュニティ支援

●現状の課題

感染症対策

●私たちが「忘れてはいけないこと」は何だと思いますか？

災害はいつでもどこでも起こり得るということ

●忘れない基金寄付者や、オンラインイベントの視聴者に伝えたいこと

感謝の気持ちです。本当に心強かったです。

特定非営利活動法人さんりく WELLNESS



いま伝えたいこと 震災からの教訓 私たちが忘れてはいけないことは？



アンケートのお答えを
抜粋してご紹介します。

いま必要なこと、伝えたいことは？

感謝

日頃から地域
コミュニティの大
切さを考えて。

コロナが落ち着いた
ら、いろいろ頑張っ
てきた東北に遊びに
来てください。

恩返しの
活動を
続けます。

忘れた時に突然
足元に災害が来た方
は、呼ばれたくもな
いのに「被災者」と
呼ばれるのです。

事業継続の方
策・自立の為
の道すじ等に
知見を。

10年は通過点。未
来にふる里をつな
いでいきます。

活動の場が学校や
家庭ではない第3
の居場所になっ
ています。

飯館村はまだ25%の
帰還率。まだまだ時
間がかかります。

映画館がなくても
沿岸でスクリーン体験
できる場を広げるのが
目標です。

震災からの教訓とは

平時の
地域力
人間関係

人の力
(人は人にしか
救われない)

過去の教訓を風
化させない。

数日間自力で暮ら
せる備え (生きる
ための食と知恵)

心の復興。
我が身に置き換え、
相手を思いやる。

国（行政）の情報を鵜
呑みにせず、地域で、
個人で学び考える。

民でも、個人でも
できることがある。

セルフケア

忘れてはいけないことは？

災害はどこでも、誰にでも起ころる。

「防災」を「忘災」にしない。

原発の事故対応は継続中であること。

人々のつながり、連帯感の共有。

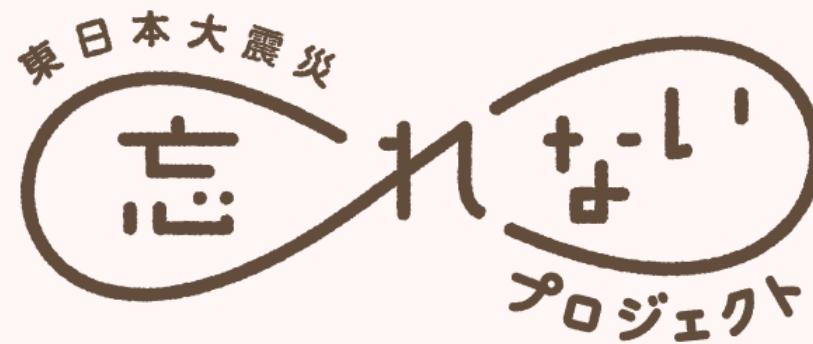
恩送り（たくさんの世界中からの支援）

日常のありがたさ。
今日1日を大切に

被災した人は、一生震災を考え続ける。そうした人々のことを思い続けてほしい。

諦めないで前へ。

東日本大震災で15899人の方が亡くなり、今も2527人の方が見つかっておらず、関連死を含めると22000人にもなること。



「防災」を「忘災」にしない